

ゴムまりが出現するまで、我が国の子供は、母や姉の手になる縫とりの手まりを与えられていた。美しい色糸で球体を種々に分割したこれらの模様は、一見複雑であるが、技術的には単純な千鳥掛のくりかえしである。この我が国固有の模様は、デザインとして観察した時、その幾何学的模様からは、近代的な感覚さえ受取れるのである。

「菊」「柳形くづし」の製作順序と、現存している少数の手まりとを、スライドで紹介したい。